

佐藤潤平氏：—東烏珠穆沁植物調査報告 (Junpei SATO : — Preliminary Report on the Flora of The Eastern Wuchumuchin-Region. Port Arthur 1934).

本書は關東廳内務局土木課の出版で滿洲水利水源調査資料植物之部第一號である。滿洲國に於ける綜合的水源水利調査の内容として編輯された本書は佐藤氏が昭和八年八月上旬より約四十日間に亘り東烏珠穆沁方面の植物を實査された調査報告である。植物分類地理學に關係ある方面を述べれば先づアート紙に印刷された多數の植物寫眞である。雀百まで踊はあすれんと云ふが我が同好の友佐藤潤平氏は水源の調査をしても植物分類は忘れず約百二十葉の植物寫眞は嬉しい。蒙古の植物の寫眞は内地に居て活字を通じて想像してゐる人々には遠くはなれた親類の寫眞でも見る様になつかしい。其の寫眞に附して植物の記載が邦文でしてあり、尙多くの植物に新和名が下してある。同氏の努力に感謝し今後もこの方面に活動されん事を願ふ。

(北村四郎)

生駒義博氏：—大山の地形、地質、動物、植物、鳥取縣 1934.

本書は伯耆の大山が國立公園になつたので鳥取縣の依頼に依り調査された報告である。生駒氏は多年鳥取縣下の博物を研究されてゐる篤學者で種々の方面から大山を研究して居られるがこゝには其の第三編大山の植物を照會する。第一章大山の植物相、第二章大山に顯著なる植物大群落、第三章大山植物帶中分布上貴重植物、第四章大山植物目録である。文中著者苦心の立派な寫眞がアート紙に印刷され植物の寫眞が約三十葉入つてゐる。(北村四郎)

大井次三郎氏：—臺灣のスゲ (J. OHWI : — Carices formosanae ; in Japanese Journal of Botany Vol. VII Nos. 1-2 Tokyo 1934).

臺灣産スゲ屬の總目録で六十種が擧げられてある。このスゲの分布から論んずれば臺灣の山地の一般フロラは支那やヒリツピンよりも内地のフロラに似てゐるといふ早田文藏博士の説を裏書きする事になるさうである。目下二十三種が固有種として知られてゐる。標品は主として京大植物標品室に保存されてゐるもので著者自身並びに故フオリー師、故長澤氏、島田氏の採集品である。本文中 *Carex apodostachya* OHWI, *C. brachyathera* OHWI, *C. Hatusimana* OHWI, *C. urelytra* OHWI は新種である。

(北村四郎)

館脇操氏：—北千島の植物 (Misao TATEWAKI : — Vascular Plants of the Northern Kuriles ; in Bulletin of the Biogeographical Society of Japan

Vol. 4, no. 4 pp. 257-334, February, 1934 Tokyo Japan).

本論文は館脇操博士が大毎及び東日の北千島探險隊の一員として同地に採集された岡田喜一氏の採品を基として書かれたもので、第一部は北千島に採集された植物、第二部は北千島の植物要素の地理的分布より成る。第一部中 *Sedum roseum* SCOP. var. *atropurpureum* TATEWAKI comb. nov., *Oxytropis kamtschatica* HULT. f. *albiflora* TATEWAKI comb. nov., *Viola kamtschatalorum* BCKR. et HULT. var. *parviflora* TATEWAKI comb. nov., *Artemisia leontopodioides* FISCHER var. *elongata* TATEWAKI comb. nov., *Carex shiriyajirensis* AKIYAMA sp. nov. 等の新學名を發表され、多數の新産地を報ぜられ、本文に依り日本並びに北千島に新しく加はつた植物が澤山ある。尙文中多數の立派な寫眞を挿入され後進者を益するところ多大である。(北村四郎)

遠藤誠道氏：一塩原洪積世かへて類 (On the fossil *Acer* from the Siobara Pleistocene Plants beds, in Jap. Jour Geol. Geogr. XI. 1934 pp. 239-253, tt. 28-35.)

塩原洪積世産かへて類の研究にして *Acer eupalmatum*, *Acer euseptemlobum*, *Acer Sieboldianum*, *Acer nikoense*, *Acer crataegifolium*, *Acer micranthum*, *Acer rufinerve*, *Acer Tschonoskii*, *Acer Miyabei*, *Acer pictum*, *Acer diabolicum* を挙げたり、之を以て見ればクロビイタヤは現世よりも廣い分布をしてゐたのが解る。(G. KOIDZUMI)

遠藤誠道氏：一日本古第三紀はず化石 (A New Species of *Nelumbo* from the Palaeogene of Japan, *ibid.* p. 255, t. 36-38.)

肥前、樺太、蝦夷等の古第三紀上部より *Nelumbo nipponica* YENDO なる新種を記せり、本種は歐洲の同時代に産する *Nelumbium provinciale* や北米の同時代に産する *Nelumbo protolutea* に近似し、此時代に北半球に廣く分布せしものなれば本屬は白堊紀に於て北周極地域に發せしものと考ふ。(G. KOIDZUMI)

遠藤誠道氏：一日本上部鮮新世産バター胡桃化石 (The Butternut from the Upper Pliocene of Japan, *ibid.* 1934. pp. 345-347. t. 42-43.)

著者は岩代國河沼郡川西村長井及び陸中花巻町の鮮新最上部の地層より現今北米に産する *Juglans cinerea* LINN. の化石を發見せり、東亞にては東方西比利亞の著者が同じく鮮新層と考ふる Aldan 河左岸 Mommothe 山に發見され、歐洲にては亦鮮新世に諸處に産し其 *Juglans Goeppertii*, *Juglans tephrodes* 等化石品亦頗るバター胡桃に類似せるものあり、故に本種は鮮新世末までは舊大陸に大なる分布をなせしものと考ふ。(G. KOIDZUMI)